

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3372200760		
法人名	医療法人 近藤内科		
事業所名	グループホーム 宗堂さくら苑 (1階)		
所在地	岡山県岡山市東区瀬戸町宗堂597		
自己評価作成日	平成23年11月5日(土)	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

365日、日々の生活のお世話は勿論、入所者様の心に寄り添う介護が出来るよう、研修やミーティングを通して、スタッフのレベルアップに力を入れています。また、同一敷地内の診療所から、医師・看護師の往診もあり、安心です。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3372200760&SCD=320&PCD=33
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ハートバード		
所在地	岡山県倉敷市阿知1-7-2-803 倉敷市くらしきベンチャーオフィス7号室		
訪問調査日	平成23年12月9日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

陽光あふれるリビングで、利用者が生き生きとした目でクリスマスの壁飾りを作っている。職員は傍らから、笑顔で話しかけながら、さりげなく道具を使いやすい位置に置いたり、利用者が好きな色の材料を手元に取り寄せていた。開設から10年目を迎え、利用者の介護度が上がってきたが、職員が自主的にレクリエーションの方法などを工夫したり、花や彩りある空間を維持して、心豊かに暮らせ、「生きていてよかった」と思える時間を増やそうと努めている。適度に壁面を埋める明るい表情の写真や作品は、ここを訪れる人の心まで和ませてくれる。敷地内の内科を母体とし、往診はもちろん、緊急時の対応が確実にできる体制となっている。また、周辺地区の民生委員を軸としたつながりを高めた結果、事業所が地域に受け入れられ、歓迎される存在となり、地元の行事などでは、利用者が参加しやすくなるよう、住民が配慮してくれるまでに至った。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々目にする所に、理念を書いたものを掲示し、理念の共有に努めています。	「住み慣れた地でその人らしく」の理念を実現すべく、「利用者に指示・命令しない」等を定めた「職員心得15カ条」を事務室に掲示し、職員は出勤時に確認している。	職員心得の唱和などで、より意識に浸透させると共に、着実に日々のケアにつながるよう、職員心得を意識した各人の目標設定を行い、一定期間ごとに自己評価するような取り組みを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との繋がりを感ぜられるよう、地区の夏祭りなどにも、ご本人はスタッフと共に参加しています。	法人として地区の会に入り、盆踊りに参加したり、区長に相談を持ちかけたりしている。事業所の廃水を気にする地元農家に配慮し、入浴剤の使用を取り止める等、周囲との良好な関係維持に努めている。敷地内の内科の患者を通じた交流もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にご参加下さる地域の方々と、情報を交換することにより、活かしていけるように努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事報告や、サービスにおける新たな取り組みなどについて、参加者と話し合い、様々なアドバイスを戴いています。	運営推進会議による定期的な民生委員との交流で、夏祭りではテントを準備してくれるなど、地域行事へ利用者を連れて行きやすくなった。昨年から始めた昼食会を兼ねる試みは、参加者の理解と協力を高めている。消防署等も適宜参加する。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	岡山市包括支援センターからも、たびたび運営推進会議へ参加して戴き、専門家としての貴重なアドバイスを戴いています。	市とは提出書類の書き方などを相談したり、必要な連絡をする程度だが、地域包括支援センターとは、運営推進会議の参加以外にも、敷地内の他事業所への訪問のついでに顔を出してくれる関係にある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングなどで、禁止の対象となる具体的な行為を理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	ミーティング等を通じ、職員は言葉のかけ方ひとつでも身体拘束になることを理解し、どうすれば防げるかを話し合い、実践している。例えば、ベッドから落ちやすい人に対しては、本人の了解のもと、居室の戸を少し開けて様子を確認しやすくしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングなどで、虐待防止について話し合い、未然に防げるように努めています。		

グループホーム宗堂さくら苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度など、今後は必要になると考えられます。研修参加などで、より一層認識を深め、すぐに活用できるようにしたいと思っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時には、ご家族に十分に説明し、改定時には、文書などでご理解・ご納得いただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情・相談窓口を重要事項説明書に明記しており、ご家族がスタッフに、要望等話せるような関係づくりに努めています。	利用者の写真に一筆添えたものを、毎月の請求書に同封したり、事業所内に意見をお願いする貼り紙をしたりと、意見を言いやすい雰囲気を作っている。しかし、当事者以外の家族等には、内容やその後の取り組みを知らせる仕組みがない。	例えば、事業所便りを作るなどして、事業所に寄せられた意見と、それに対してどのように取り組んでいるかを、家族等にも知らせてもらえるよう、期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、スタッフの意見に耳を傾け、意見を活かすよう努めており、それは代表者にも届いています。	職員は意見を言いやすい。管理者は、飾り付けやレクリエーションなど、業務の一部を職員に任せ、口出ししないことで、職員の創意工夫を積極的に引き出している。代表者である院長も毎日、事業所の様子を見に来るので、相談しやすい。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、スタッフがやりがいを持って働けるよう、環境・整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、スタッフの技術・メンタル両面において、資質の向上の為に、各種研修の機会を与えています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岡山市東区のグループホーム管理者が集う交流会に参加させて戴いたり、赤磐市のグループホームあさひさんにご縁が出来、お互いに、見学や運営推進会議や敬老会などに、引き招かれる関係が出来つつあります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に十分に話を聞き、入所後もしばらくは、出来る限り寄り添うようにしています。ご本人やご家族が何を望んでおられるのかを、知ることから始めたいと思っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所決定時には、ご家族は様々な不安や葛藤をお持ちだと思います。今後何でも話し合い、一緒に考えていきたい事を、伝えています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居当日からまず必要なサービスについて、ご家族やスタッフと話し合うようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する側・される側にならないよう、個々の人格を尊重し、共に支え合いながら生活できるように努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の様々な事情を理解した上で、ご家族・スタッフ共に、ご本人を支える様にしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族は勿論、ご近所の方や友人が、気兼ねなくいつでも会いに来られる雰囲気作りにも努めています。	自宅、馴染みの床屋、買い物など、本人が行きたい場所へは、できる限り家族の協力を仰ぎ、外出時の様子を尋ねて書き留める。家族等の来訪時は、その時の様子も含めて職員が面会ノートに記載し、それを話題に、利用者を盛り上げている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	無関心や、気の合わない人と、時には小さなトラブルが発生することもあります。スタッフは常に気を配り、良い関係が築けるように努めています。		

グループホーム宗堂さくら苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院治療のために退所後も、面会に行っています。退院後の相談も受けながら、不安にならないよう支援しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で、話をしながら、ご本人の思いや希望を知り、添えるように努めています。	意向を言葉にできる利用者が多く、できる限り添えるよう努めている。特に「帰りたい」には家族の協力があれば短時間でも自宅に帰り、希望を叶えてもらう。日頃から顔をうかがい、どんな気持ちになっているかをくみ取って行動している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所までの暮らしについては、ご本人・ご家族・担当していたケアマネなどから、情報を収集し、把握するようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	収集した情報を基に、スタッフ間のミーティング・申し送りにより、ご本人のその日の状態を把握できるようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族の希望に基づき、スタッフ全員で話し合い、サービス担当者会議で検討して、ケアプランを作成しています。	家族とできる限りの話し合いを持ち、利用者の気持ちを大切にされた介護計画が練られている。本人の心の動きを捉えた日々の観察記録を基に、1か月ごとに計画の目標に照らし合わせて判断し、次のステップへとつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の介護記録に、ご本人の日々の様子や変化などを、詳細に記録しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(小規模多機能型のみ記載)		

グループホーム宗堂さくら苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の盆踊りに参加して、なじみの方々と話をしたり、カラオケ・民謡・三味線・フラダンスなどの、地域ボランティアの方々に訪問していただいて、練習の腕前を披露して貰っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	従来のかかりつけ医と、協力医療機関の医師との連携を図り、病気の種類により、適切な医療を受けられるようにしています。	家族からの強い希望で、全員が敷地内の母体医院にかかりつけ医を変更している。院長は往診時以外も、毎日利用者の様子を見に来る。眼科などの専門医は従来の医師を継続し、家族が状態を知る意味でも、原則、家族で受診付き添いをする。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	スタッフに看護師を配置しています。また、協力医療機関からも、随時必要に応じて、看護師の訪問が有り、スタッフの相談を受けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医療機関と協力医療機関とは、常に連携を図り、本人の病状・様子の把握に努めています。また、スタッフも面会に行き、ご家族とも情報の交換を行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、重度化した場合における対応に係る指針についての説明をしています。	重度化の対応指針を明確に示し、利用者や家族の同意を得ている。できる限り本人や家族の意向に添い、また可能な限りグループホーム内での生活が続けられるよう、介護体制、医療連携体制を築いている。すでに看取りの経験もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今年AEDを設置し、使い方の説明を受けています。また、急変・事故発生時の対応のマニュアルにより、スタッフは全員対応できるようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災を想定した避難訓練を、年に2回実施しています。	今年度、スプリンクラーを設置した。消防署の全面的な協力を得て、実践的な避難訓練を行い、何を最優先すべきかを職員は理解している。一部の利用者は実際に消火器を試した。消防署から近く、敷地内の他事業所との連携も取れている。	

グループホーム宗堂さくら苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	タイムカード横に、人格尊重のための心得を掲示し、仕事に入る前に、全スタッフは、今一度介護の原点に立つ努力をしています。	どの職員も笑顔で利用者と接し、家族からも高い評価を得ている。声のトーンを少し下げて、ゆっくりと穏やかな口調で、理解しやすい言葉をかている。命令や指示にならないよう、禁句や語尾にも注意を払っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が思いや希望を表せるよう、スタッフは寄り添いながら、自己決定を支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のその日の体調や希望に合わせて、リビングやお部屋で過ごす時間を、ご自分で決めていただいています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容室にご家族と出かけられたり、スタッフに希望を言ってカットして貰ったりしています。日々の服も、ご自分で選んで着ていただいています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在、お料理は一緒にしていませんが、ご飯の炊けるにおいやお味噌汁の香りなど、食欲が湧く様配慮しています。テーブルふきやお茶入れなど、出来る範囲でお手伝いして載っています。	ご飯と汁物以外は、隣接の厨房で調理されたものを盛り付けている。食事はおいしいと好評である。職員も一緒にテーブルを囲み、食後もゆっくりとする。介護度が上がり、普段の手伝いは難しいが、お菓子作りを一緒にやり楽しんでもらう。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分補給には、特に気を配っています。食事も、個々の量・速度・好みを把握し、食事を楽しんで戴けるように支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、各自に合わせた口腔ケアを行っています。		

グループホーム宗堂さくら苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限りトイレ誘導して、おしめに頼らない生活を心がけています。毎日の排泄チェック票により、個々の排泄のリズムを把握しています。	排泄チェック表を活用し、時間や仕草からタイミング良く、さりげなくトイレへ誘導している。夜間は寝返りや杖の僅かな音を察知し、素早く対応している。各居室にトイレがあり、安心して用が足せるよう、常に消臭と美化に気を付けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排泄チェック票により、常に主治医と相談し、水分量や漢方薬の処方などで、排便コントロールしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の体調に合わせて、ゆっくり入浴を楽しんで戴けるよう支援しています。今後、より柔軟な対応が出来るようにしたいです。	入浴は週2～3回で午後を基本としているが、時間や順番、入浴日は状況に応じて柔軟に対応している。好みの湯加減に調節し、若い頃の話などで寛いでもらう。ジャグジーを楽しむ人もいる。安全に配慮しつつ、その人のペースで入ってもらう。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リビングや個室で、思い思いに過ごして戴いています。お昼寝や休息など、個々のリズムの把握にも努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の支援には、細心の注意をしています。常に主治医と関わりを持ち、薬が変わったときには、特に気をつけて様子を見るようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	気兼ねなくご自分の好きなことが出来るよう、気を配っています。茶道・書道・編み物など、個々に楽しまれています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族の御協力も有り、美容室や食事や買い物に出かけられています。また、ご家族に代わって、スタッフと通院もしています。	以前は近隣をよく散歩したが、介護度が上がり、中庭などの敷地内が多くなった。近所のビール工場や祭りの見学がスムーズにできるよう、地域の協力を取り付けている。行きたい場所への個別の外出は、家族の協力を得て行っている。	全員一緒の外出だけでなく、ごく少人数での短時間ドライブなど、できそうなものを試み、外出機会を増やせるよう、期待したい。また家族へは、精神的負担を減らすため、外出時の困りごとにどう対処するか等をアドバイスできるよう、期待する。

グループホーム宗堂さくら苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	実践できていません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙も電話も、ご家族から受ける方が多いですが、携帯電話でご自分で電話したり、返事のはがきと一緒に書いて送るなどしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには穏やかな光が入り、明るくあたたかい雰囲気です。温度や湿度にも気を配っています。壁には、季節のクラフトや、個々の作品や写真を飾っています。	きれいな室内で気持ちの良く一日をスタートが切れるよう、朝一番に掃除している。南向きの大きな窓から陽光が降り注ぐリビングは、毎日欠かさず花が飾られ、また、壁面には思い出の写真や作品が掲げられ、落ち着きと楽しさの調和がとれた空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファや和室、敷地周りの散歩など、自由に寛いで載っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に、ご家族が、ご本人の愛用品やお気に入りの物を整え、安心して過ごせるようにしています。一人一人個性のあるお部屋になっています。	床から数十cm上がった窓際の畳コーナーは、お茶を立てる人、腰かけて一息つく人、テレビを置いている人など、各人が自分ひとりの時間を楽しんでいた。職員が片付けや壁の飾りつけを手伝い、心む居心地良い部屋になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレは各個室に設置されていますが、車椅子で楽に利用できる共用のトイレがあります。また、生活の場所には、手すりを取り付けています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3372200760		
法人名	医療法人 近藤内科		
事業所名	グループホーム 宗堂さくら苑 (2階)		
所在地	岡山県岡山市東区瀬戸町宗堂597		
自己評価作成日	平成23年11月5日(土)	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3372200760&SCD=320&PCD=33
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ハートバード		
所在地	岡山県倉敷市阿知1-7-2-803 倉敷市くらしきベンチャーオフィス7号室		
訪問調査日	平成23年12月9日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々目にする所に、理念を書いたものを掲示し、理念の共有に努めています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との繋がりを感ぜられるよう、地区の夏祭りなどにも、ご本人はスタッフと共に参加しています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にご参加下さる地域の方々と、情報を交換することにより、活かしていけるように努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事報告や、サービスにおける新たな取り組みなどについて、参加者と話し合い、様々なアドバイスを戴いています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	岡山市包括支援センターからも、たびたび運営推進会議へ参加して戴き、専門家としての貴重なアドバイスを戴いています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングなどで、禁止の対象となる具体的な行為を理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングなどで、虐待防止について話し合い、未然に防げるように努めています。		

グループホーム宗堂さくら苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度など、今後は必要になると考えられます。研修参加などで、より一層認識を深め、すぐに活用できるようにしたいと思っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時には、ご家族に十分に説明し、改定時には、文書などでご理解・ご納得いただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情・相談窓口を重要事項説明書に明記しており、ご家族がスタッフに、要望等話せるような関係づくりに努めています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、スタッフの意見に耳を傾け、意見を活かすよう努めており、それは代表者にも届いています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、スタッフがやりがいを持って働けるよう、環境・整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、スタッフの技術・メンタル両面において、資質の向上の為、各種研修の機会を与えています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岡山市東区のグループホーム管理者が集う交流会に参加させて戴いたり、赤磐市のグループホームあさひさんとご縁が出来、お互いに、見学や運営推進会議や敬老会などに、招き招かれる関係が出来つつあります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に十分に話を聞き、入所後もしばらくは、出来る限り寄り添うようにしています。ご本人やご家族が何を望んでおられるのかを、知ることから始めたいと思っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所決定時には、ご家族は様々な不安や葛藤をお持ちだと思います。今後何でも話し合い、一緒に考えていきたい事を、伝えていきます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居当日からまず必要なサービスについて、ご家族やスタッフと話し合うようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する側・される側にならないよう、個々の人格を尊重し、共に支え合いながら生活できるように努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の様々な事情を理解した上で、ご家族・スタッフ共に、ご本人を支える様にしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族は勿論、ご近所の方や友人が、気兼ねなくいつでも会いに来られる雰囲気作りに努めています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	無関心や、気の合わない人と、時には小さなトラブルが発生することもあります。スタッフが常に気を配り、良い関係が築けるように努めています。		

グループホーム宗堂さくら苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院治療のために退所後も、面会に行っています。退院後の相談も受けながら、不安にならないよう支援しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で、話をしながら、ご本人の思いや希望を知り、添えるように努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所までの暮らしについては、ご本人・ご家族・担当していたケアマネなどから、情報を収集し、把握するようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	収集した情報を基に、スタッフ間のミーティング・申し送りにより、ご本人のその日の状態を把握できるようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族の希望に基づき、スタッフ全員で話し合い、サービス担当者会議で検討して、ケアプランを作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の介護記録に、ご本人の日々の様子や変化などを、詳細に記録しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(小規模多機能型のみ記載)		

グループホーム宗堂さくら苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の盆踊りに参加して、なじみの方々と話をしたり、カラオケ・民謡・三味線・フラダンスなどの、地域ボランティアの方々に訪問していただいて、練習の腕前を披露して貰っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	従来のかかりつけ医と、協力医療機関の医師との連携を図り、病気の種類により、適切な医療を受けられるようにしています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	スタッフに看護師を配置しています。また、協力医療機関からも、随時必要に応じて、看護師の訪問があり、スタッフの相談を受けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医療機関と協力医療機関とは、常に連携を図り、本人の病状・様子の把握に努めています。また、スタッフも面会に行き、ご家族とも情報の交換を行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、重度化した場合における対応に係る指針についての説明をしています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今年AEDを設置し、使い方の説明を受けています。また、急変・事故発生時の対応のマニュアルにより、スタッフは全員対応できるようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災を想定した避難訓練を、年に2回実施しています。		

グループホーム宗堂さくら苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	タイムカード横に、人格尊重のための心得を掲示し、仕事に入る前に、全スタッフは、今一度介護の原点に立つ努力をしています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が思いや希望を表せるよう、スタッフは寄り添いながら、自己決定を支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のその日の体調や希望に合わせて、リビングやお部屋で過ごす時間を、ご自分で決めていただいています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容室にご家族と出かけられたり、スタッフに希望を言ってカットして貰ったりしています。日々の服も、ご自分で選んで着ていただいています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在、お料理は一緒にしていませんが、ご飯の炊けるにおいやお味噌汁の香りなど、食欲が湧く様配慮しています。テーブルふきやお茶入れなど、出来る範囲でお手伝いして載っています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分補給には、特に気を配っています。食事も、個々の量・速度・好みを把握し、食事を楽しんで戴けるように支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、各自に合わせた口腔ケアを行っています。		

グループホーム宗堂さくら苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限りトイレ誘導して、おしめに頼らない生活を心がけています。毎日の排泄チェック票により、個々の排泄のリズムを把握しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排泄チェック票により、常に主治医と相談し、水分量や漢方薬の処方などで、排便コントロールしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の体調に合わせて、ゆっくり入浴を楽しんで戴けるよう支援しています。今後、より柔軟な対応が出来るようにしたいです。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リビングや個室で、思い思いに過ごして戴いています。お昼寝や休息など、個々のリズムの把握にも努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の支援には、細心の注意をしています。常に主治医と関わりを持ち、薬が変わったときには、特に気をつけて様子を見るようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	気兼ねなくご自分の好きなことが出来るよう、気を配っています。茶道・書道・編み物など、個々に楽しまれています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族の御協力も有り、美容室や食事や買い物に出かけられています。また、ご家族に代わって、スタッフと通院もしています。		

グループホーム宗堂さくら苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	実践できていません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙も電話も、ご家族から受ける方が多いですが、携帯電話でご自分で電話したり、返事のはがきと一緒に書いて送るなどしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには穏やかな光が入り、明るくあたたかい雰囲気です。温度や湿度にも気を配っています。壁には、季節のクラフトや、個々の作品や写真を飾っています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファや和室、敷地周りの散歩など、自由に寛いで載っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に、ご家族が、ご本人の愛用品やお気に入りの物を整え、安心して過ごせるようにしています。一人一人個性のあるお部屋になっています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレは各個室に設置されていますが、車椅子で楽に利用できる共用のトイレがあります。また、生活の場所には、手すりを取り付けています。		